Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

MTT035-01 会場:203 時間:5 月 24 日 08:30-08:45

Fieldnet-フィールドワークする研究者の知と知をつなぐ-がめざすもの
Fieldnet:Let’s link the knowledge among the field researchers

椎野 若菜 [1*]
Wakana Shiino[1*]

[1] 東京外大アジア・アフリカ言語文化研究所
[1]ILCAA,Tokyo Univ. of Foreign Studies

フィールドネットは、限りない探求心を基にフィールドワークをする研究者が、互いにとって有用な情報を交換し、異分野間の研究交流を進め、フィールドから生まれた、あるいは内側から生じた共通のトピックをもとに協同を生む可能性を秘めたネットワークだ。
私の専門は社会人類学で、ケニア西部のルオ民族の村落でフィールドワークをしてきた。その一方で、ナイロビにある日本学術振興会ナイロビ研究連絡センターにおいて出会ったさまざまな大学の異なる分野――生態人類学、霊長類学、地理学、昆虫学、考古学等―の方々に大きく影響されてきた。だが残念なことに、ナイロビのほかにこうした場がないのが実情だ。そこで研究者がフィールドを介し情報交換や議論ができる場をウェブ上につくり、それをもとにネットワークづくりをしたい、フィールドやトピックを共有することからうまれる学際的研究の可能性を探りたいと思ったのが Fieldnet の始まりだ。本発表では、その Fieldnet 誕生の背景、ねらい、心意気を発表したい。

キーワード: フィールドワーク, 学際的研究, フィールドサイエンス
Keywords: Fieldwork, Multi-disciplined studies, Field Science

Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

MTT035-02 会場:203 時間:5 月 24 日 08:45-09:00

ロシア国境地帯でのフィールドワーク
Field works in the border regions of Russia

福井 幸太郎 [1*]
Kotaro FUKUI[1*]

[1] 立山カルデラ砂防博物館
[1]Tateyama Caldera Sabo Museum

1991 年末のソビエト連邦崩壊後、いままで外国人の立ち入りが厳しく制限されていたロシアの国境地帯に他国の研究者が入ることが出来るようになった。しかし、未だにロシア国境地帯に関する情報は限られている。発表者はロシア国境地帯であるロシア・アルタイ山脈とカムチャッカ半島で山岳永久凍土の観測を 2003 年から 2008 年の間に合計 6 回実施した。この時の経験をもとに Fieldnet のサイトにロシア国境地帯の調査情報を掲載している。今回はこれらの地域についてのより詳細な情報を紹介する。

キーワード: フィールドネット, フィールドワーク, ロシアアルタイ山脈, カムチャツカ, 永久凍土
Keywords: Fieldnet, Field work, Russia Altai Mountains, Kamchatka, Permafrost

Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

MTT035-03 会場:203 時間:5 月 24 日 09:00-09:15

極地探検家とのフィールド調査
Field science with a polar explorer

的場 澄人 [1*], 山崎 哲秀 [2]
Sumito Matoba[1*], Tetsuhide Yamasaki[2]

[1] 北海道大学低温科学研究所, [2] アバンナット
[1]ILTS, Hokkaido Univ., [2]Avangnaq

アバンナット計画は、極地活動家の山崎哲秀の北極圏での活動経験を生かし、北極域の自然環境と生活する人々の生活環境を研究者とともに継続的に観測・調査することを目的として設立されたプロジェクトである。2010 年 1?2 月には、カナダレゾリュートにおいて、海氷表面に発達する霜（フロストフラワー）の観測を行った。極地で探検的活動を行う人々と科学研究との共同調査はこれまで国内外で行われてきた。本研究発表では、これまで行ってきた研究調査の経験をもとに、今後の可能性について議論したい。

キーワード: グリーンランド, 雪氷学, 氷河, 犬ソリ
Keywords: Greenland, glaciology, glacier, dog sledge

Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

MTT035-04 会場:203 時間:5 月 24 日 09:15-09:30

フィールドにおける共同調査と学際的研究
Interdisciplinary research project and fieldwork

石森 大知 [1*]
Daichi Ishimori[1*]

[1] 東京外国語大学
[1]Tokyo University of Foreign Studies

異分野の研究者のフィールドワークおよびその方法論を間近でみることは、いわば「異文化体験」といっても過言ではない。それは、１つには、文系／理系の学問的営みが、それぞれ定性的／定量的、質的／量的と形容される「差異」を有するものだからであろう。たしかに、これらのことを机上でいくら議論しても、なかなかこの差異は埋まるものではない。しかし、異なったもの同士が違いをそのままにしつつも、具体的な交流・交感を重ねることで、分野間の境界線が曖昧になるように思え、あるいはむしろ交差点も大きいと感じることもあった。それは、同一のフィールドに立ち、そして同一の現象をともに共有しながら、異分野の研究者間で展開される即時的かつ創発的な応答の連鎖・蓄積をとおして、醸成されてくるものであるといえる。

キーワード: 学際的研究, フィールドワーク, 文化人類学
Keywords: Interdisciplinary research, fieldwork, cultural anthropology

Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

MTT035-05 会場:203 時間:5 月 24 日 09:30-09:45

沙漠のフィールドワーク――黄砂岩をめぐる学際的研究の可能性
Fieldwork in Desert: Possibility of Inter-Disciplinary Research on Yellow Sand-Stone

小西 公大 [1*]
Kodai Konishi[1*]

[1] 東京大学東洋文化研究所
[1]Institute for Advanced Studies of Asia

本発表は、インド北西部に広がるタール沙漠における長期の人類学的フィールドワークの成果を提示しつつ、学際的研究の可能性を模索するものである。同沙漠に点在する城塞都市や周辺村落部では、現地で採掘される黄砂岩を建材としてあらゆる建築物が構築されている。また、神々の神像や死者のモニュメント、過去の歴史を伝える碑文に至るまで黄砂岩は多用され、現地の人々の生活にとって非常に重要な意味を持つ素材なのである。黄砂岩にまつわる多様な側面を明らかにしつつ、人々の生活における「石」のもつ意味、ひいては人間と石の関係を明らかにする研究を志すものである。この研究は、黄砂岩そのものの物質性や、その形成にまつわる地質学的な問題、さらにはそれを用いて構築される建造物の構造の問題など、異分野にまたがる学際的研究が必要とされている。本発表はそうした包括的な研究に向けた端緒として考えている。

キーワード: フィールドワーク, タール沙漠, 黄砂岩, 学際的研究, 人類学
Keywords: Fieldwork, Thar Desert, Yellow Sand-Stone, Inter-disciplinary Research, Anthropology

Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

MTT035-06 会場:203 時間:5 月 24 日 09:45-10:00

エスノサイエンスとサイエンスの関係―農村調査の経験から―
Ethnoscience and science in an ethnobotanical fieldwork

佐藤 靖明 [1*]
Yasuaki Sato[1*]

[1] 大阪産業大学
[1]Osaka Sangyo University

人びとが環境を認識して利用する際の知識もしくは技術のことを「エスノサイエンス」と呼ぶ。それは環境に関わる多くの研究分野と接点を持ちうるが、本来、西欧世界に基盤をもつ「科学」的な研究とは異なる体系として取り出されてきた経緯をもつ。学際的な研究の潮流の中で、エスノサイエンスの知見は「科学」に同化・吸収されるのか、それとも「科学」と対置されるのか … 。

筆者のウガンダでのバナナ農耕民を対象とした調査や、国際研究機関でのインターンシップ時の経験をとおして、エスノサイエンスと異分野とのつながり方について考える。

キーワード: エスノサイエンス, 知, フィールドワーク, バナナ
Keywords: ethnoscience, knowledge, fieldwork, banana

Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

MTT035-07 会場:203 時間:5 月 24 日 10:00-10:15

フィールドワークによる人間－環境関係研究
Fieldwork for Human-Environment Relations Research

古澤 拓郎 [1*]
Takuro Furusawa[1*]

[1] 京都大学
[1]Kyoto University

人間と環境の関係を理解することの重要性が高まり、多岐の学問分野で研究されてきたが、これからはそれらを越境して、包括的に取り組む必要もある。長期滞在のフィールドワークを行なうと、自分の専門に限らず、様々な側面を調査することができ、その狭い地域を包括的な視点から研究するチャンスである。

事例１として、ソロモン諸島の漁撈農耕社会が、地理的条件を活用して、伝統的生業と市場経済化の導入を両立していることを、農耕生産性、土壌養分、人口支持力、土地利用変化、土地保有の社会制度、食習慣から研究したことを取り上げる。

事例２として、太平洋地域で大きな健康問題になりつつある肥満について、遺伝学的側面と生態学的側面から研究したことを取り上げる。

これらを通して、分野横断のフィールドワークを行なうことによる優位性や問題点を整理し、これからの可能性について議論する。

キーワード: 人類生態学
Keywords: Human Ecology

Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

MTT035-08 会場:203 時間:5 月 24 日 10:15-10:30

環境問題研究におけるフィールドワークの役割
How fieldworks can contribute to environmental problems

大西 健夫 [1*]
Takeo Onishi[1*]

[1] 岐阜大学流域圏科学研究センター
[1]RBRC, Gifu University

地球科学ほど異分野融合が求められる分野はない。異分野融合のためには、「テーマ」、「概念」、「場」などの共有が重要となる。最も基本的な「場」とは、データ収集を行うフィールドにほかならない。しかし、フィールドの共有だけでは異分野融合は進まない。フィールドワークのあり方に関する相互理解が必要となる。本セッションでは、多分野のフィールドワーク経験の共有を通して、フィールドワークのあり方を議論する。本発表では、議論を進めるにあたりフィールドを起点として異分野融合的研究を進めるにあたり、どのような視点が重要となりうるかを、環境問題研究の視点から論ずる。本報告では、環境問題研究という視点からは異分野融合の必要性は必然的である、との立場にたち、以下の５つのポイントから、環境問題研究におけるフィールドワークの役割と、環境問題研究におけるフィールドワークのあり方を論じる。

最初に、フィールドワークを行うフィールドに限定せず、広く「場」という概念がどのような文脈で用いられているのかを概観する。その上で、フィールドの共有のために必要となる Boundary object の重要性を確認する。Boundary object とは異分野の境界に存在し、互いに共有されている何かである。同時に Boundary object には多義性も許容されることを確認する。　その上で、環境問題においては、これから将来にわたって「場」の境界設定が重要な論点となるであろうことを、いくつかの事例をとりあげながら議論することを試みる。　また、実験科学とフィールド科学の対比から、固有性と普遍性の問題を論じ、1 回しか起こらない（繰り返しがきかない）フィールドの研究を通していかに普遍的な知見を導きうるのか、という視点からの異分野融合の可能性を議論する。　さらに、今現在うごきつつあるシステムを止めることなく（要素還元的に分解することなく）システムのあり方を改良していくときの方法論の模索が急務であるとの認識から、フィールドを介した異分野融合研究の可能性を論じる。

キーワード: 分野融合, 環境問題, 境界
Keywords: trans disciplinary, environemntal problems, boundary

Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

MTT035-09 会場:203 時間:5 月 24 日 10:45-11:00

Humanity Boundaries 策定のための統合知: 未来可能な農林水産業の考究
Towards a consilient Humanity Boundaries framework in the context of futurable agriculture, forestry, and fishery

半藤 逸樹 [1*], 大西 健夫 [2]
Itsuki C. Handoh[1*], Takeo Onishi[2]

[1] 総合地球環境学研究所, [2] 岐阜大学流域圏科学研究センター
[1]RIHN, [2]Gifu University

農林水産業は，人類が文明を維持する上で必要不可欠なものである．人類は，新石器革命の段階で，森林を伐採し，農耕を始めることで，生物圏の中に人間圏の原形を構築した．以来，農林水産業は，人間活動の時空間スケールに応じて，様々な形態を取り，今日に至っている．しかしながら，人間活動と環境保全との調和とその未来可能性 (Handoh and Hidaka, 2010) を重視する場合，生産効率に環境リスクの不確実性を加え，予防原則を考慮した上で，人口と再生産資源量に応じた農林水産業のあり方を検討する必要がある．

持続可能性の新しい尺度として，Rockstrom *et al.* (2009) は， Planetary Boundaries（人間活動に対する全球規模の環境許容限界; PBs）という 9 つの統合的環境基準を導入した．このような環境基準は，地域社会における農林水産業の実態にも影響を受ける．例えば，費用対収量の最適化で行っている灌漑のための淡水の使用，水産養殖業での餌量の投与は，農薬による化学汚染，森林伐採による生物多様性の損失と同様に，大気循環や生物地球化学的物質循環を介して環境リスクに発展し得る．しかしながら，農林水産業の形態と位置づけは，地域の風土・気候や生活様式，文化・社会的背景によって大きく異なるため，これらを基にした新たな環境基準の導入が必要となる．この環境基準を，人間性豊かな地域社会を維持するための環境許容限界という意味で，Humanity Boundaries (HBs) と呼ぶとすれば，地域の特徴を考慮した上で PBs をダウンスケーリングして HBs を策定するための統合知の確立は，各地域の循環型社会における農林水産業のあり方を提案することに繋がる．

本研究では，文理融合を前提とする分野横断的な研究体制により，農林水産業に連動する環境基準について，フィールドワークの視点に基づく地域から全球への帰納的環境リスク評価と，逆方向の演繹的環境リスク評価を統合する試みを紹介する．特に，HBs 策定のための統合知の確率過程を議論する．

参考文献

1. Handoh, I.C., and Hidaka, T. (2010). On the timescales of sustainability and futurability, *Futures*, **42**: 743-748.
2. Rockstrom *et al*., (2009): A safe operating space for humanity, *Nature*, **461**: 472-475.

キーワード: 統合知, 分野横断型研究, 農林水産業, Planetary Boundaries, Humanity Boundaries, 未来可能性
Keywords: Consilience, Crossdisciplinary research, Agriculture, forestry, and fishery, Planetary Boundaries, Humanity Boundaries, Futurability

Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

MTT035-10 会場:203 時間:5 月 24 日 11:00-11:15

フィールドワーカーがネットで融合する
Online fusion of fieldworks

澤柿 教伸 [1*]
Takanobu Sawagaki[1*]

[1] 北海道大学地球環境科学研究院
[1]Hokkaido University

I will discuss on the possibility and ability of the internet activities for the fusion between different disciplines, especially for fieldworkers who act in the variety on regions all over the world.

キーワード: フィールドワーク, 学際的, インターネット
Keywords: Fieldwork, interdisciplinary, Internet

Japan Geoscience Union Meeting 2011
(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)
©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.

MTT035-11 会場:203 時間:5 月 24 日 11:15-11:30

フィールドから見えてくる分野融合研究の未来
Future of inter-disciplinary research from fields

大西 健夫 [1*]
Takeo Onishi[1*]

[1] 岐阜大学流域圏科学研究センター
[1]RBRC,Gifu University

フィールドワークの未来を、口頭発表の内容を踏まえて、議論する。

キーワード: フィールド, 分野融合
Keywords: Field, Interdisciplinary research